

★同志社中学校理科主催「わくわく理科」★

# 「京都地方気象台」見学

《日時》2017年3月29日(水)

午後1時～3時30分

《場所》京都地方気象台(京都市中京区太子道)

別館、本館、露場(各種観測装置、生物季節標準植物)

春らしい天気となった29日、「わくわく理科」としては初めての企画「気象台見学」を行いました。「気象」というと「苦手」「難しい」などの印象があるかも知れませんが、日頃吸っている空気の移動や変化、今日はいつから雨が降るのかどうかの予報など、実は日々の生活に密接な関係があります。今回は気象情報官の山岡さんより詳しい案内と説明があり、とても貴重な学びになりました。

山岡さん、数多くのご教示有難うございました!

2016年度 わくわく理科企画

## 京都気象台見学!

自然・天気・ヒト

～今大切な気象の見方とは?～

《日程》

3月29日

(水曜日)

午後1時～3時

(12時50分に気象台玄関前集合)

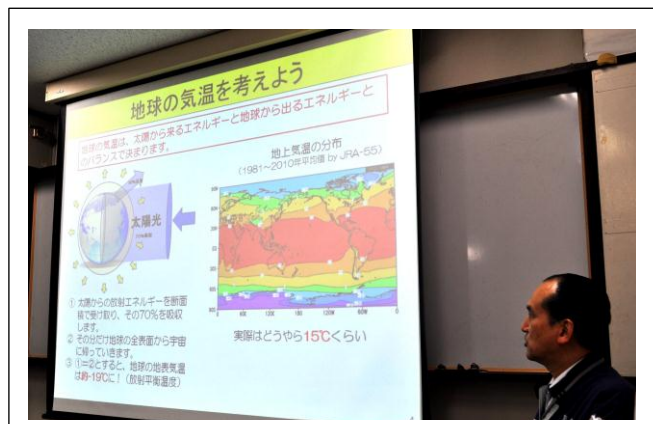
《内容》 京都気象台気象情報官の山岡英夫さんから、気象台の雨量計などの計器、生物季節の変化、京都の気象の特徴 などわかりやすく説明していただきます。温暖化といわれる現在ですが、過去から京都の気象はどうだったのかもじっくり学びたいと思います。

《参加申し込み》 先着20名です!

参加希望者は、生物・地学教室前の「参加希望用紙」に記入するか、担当の田邊に直接連絡してください。

《申し込み締め切り》 3月22日(水) 午後4時

自然好き、生物好き、気象好き、最近の気象(ゲリラ豪雨、温暖化、大雪警報・・・)に興味を持っている人 大歓迎!!



最初、室内では「温暖化」「京都の天気の特徴」「集中豪雨」などについて豊富なスライドで詳しい説明がありました。

### 京都は「集中豪雨」発祥の地

「集中豪雨」が最初に使われた「南山城水害」  
「南山城水害」+「台風第13号」=「昭和28年災害」

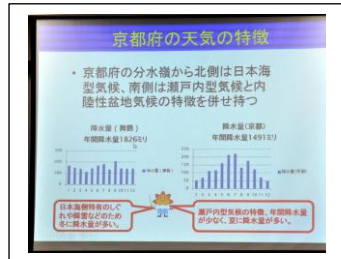
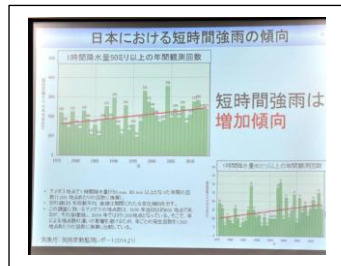
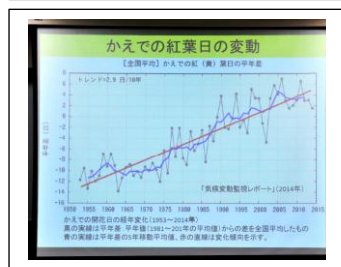
《参考》

＜NHK 気象・災害ハンドブック から引用＞

集中豪雨ということばが初めて使われたのは、1953年8月15日の朝日新聞の夕刊(大阪本社版)とされている。

「集中豪雨 木津川上流に」という見出しで、本文にも「(前略) 激しい雷と豪雨を伴って木津川上流に集中豪雨を降らせ」とある。集中豪雨という表現が現象を的確に表していたため、マスコミ用語からしだいに気象用語としても定着するようになった。

予報室では、衛星からの雲画像が刻々と送られてきていました。





予報室は大きなコンピュータもあり熱気ムンムンでした。それを冷やす扇風機が不思議と印象に残りました。



本館の南側にある露場には、雨量計、温度計・湿度計通風筒、感雨器、積雪計などが設置してあって、そのそれぞれについてしくみや、特徴を教えてくださいました。

「ししおどし」の原理を利用した転倒まず型雨量計については、側面が開けられた機器も用意していただきました。その機器を利用して、120mm/hの猛烈な雨を再現しようとしても、なかなか思い通りにできなかつたりして、参加者は、雨のイメージの意外性についても理解しました。

また、フェンス沿いには「生物季節観測」に使用される植物が多種類植えられていました。



露場から、また研修室に戻ってからは「雷の特徴と怖さ」や「竜巻が接近した時の対策」、「土砂災害」や「大雨時の河川付近での注意」などのDVDを鑑賞。その後、実際に圧電素子を使用したガラス球での雷実験、ペットボトルでの雲発生実験などを体験しました。雲発生実験では「蚊取り線香の煙」が凝結核として最も適していることなど、貴重な情報もいただきました。

今回は非常に盛りだくさんの内容で、とても充実した貴重な機会でした。また、企画してみたいです。(T)



← 転倒まず型雨量計内部  
→ 炭酸用ペットボトルに煙を入れる。



## 【参加生徒の感想紹介(一部)】

- ・ 普段入れないところに入ることができてよかったです。昔からその場所で観測をしてきたからということで、観測場所を変えないという話を聞いたときは、いかにも京都らしいなあと思いました。1時間あたりで予想した時の7日先と、3か月あたりで予想した時の40年先の精度がほぼ同じという話が、説得力があってわかりやすかったです。
- ・ 今日は、普段見ないような物を見れたり、特に見ててすごいと思ったのは、アメダスなどの天気雲の動きが、早送りで見れるのがとても珍しいものだったので、良い機会だったなと思いました。
- ・ いつもテレビやスマートフォンで見ているような物や機械がたくさんあってびっくりしました。「警報」を出すときにはたくさんの操作をしないといけないのは知りませんでした。外にあるスペースには、1mに近づくと気象庁本部にいつってしまうのは大変だなと思いました。
- ・ 桂川を氾濫させたような大雨でも、雨量計で再現しようと思ったより少なく感じて驚きました！ 桜以外にも生物の観察をしているとは知りませんでした。桜前線ならぬ、アジサイ前線などはとても面白いです。テレビでもみたいです。50年先、100年先の天候の予報が週間予報と同じくらいの精度だとは驚きです。人間って、思ったより色んなものを作っているんだなあ。
- ・ 僕はいつもNHKなどのニュース番組で見ている天気予報を決めるところが見れてよかったですなあとと思いました。それに雲の動きを確認するために気象衛星を使っているのがすごいと思いました。気温の観測以外にも初霜の観測をしていたというのは、初めて知りました。そして、正確な情報を伝えるために、毎回確認したり、ちゃんとした環境を作って観測しているのだなあと思いました。
- ・ いろいろな資料ももらえて、実験などもさせてもらってとても楽しかったです。なかなか入れない予報室の場所まで見学することができて有意義な時間となりました。解説していただいた山岡さん、詳しい説明ありがとうございました。